

室蘭工業大学-学報

NO.670



「Microsoft 365 Copilot Cup 2025」(主催: 日本マイクロソフト株式会社)の様子
(3 ページに関連記事あり)

2025年 8 月号

目 次

◇ トピックス ◇

「価値ある大学 就職力ランキング2025-2026」中小規模大学版「卒業生の活躍度が分かる新・就職力ランキング」全国3位（タイ）にランクイン……………	1
日本学生支援機構海外留学支援制度（協定受入）奨学金プログラム：台湾国立屏東大学を対象とした研修プログラムを実施……………	2
室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室が「Microsoft 365 Copilot Cup 2025」で優勝…	3
本学大学院生らの論文がMDPIの「Feature paper」に選出 ……………	4
『between us: 私たちはAIと、創造性を問い直す』に董冕雄副学長が対談者として掲載 …	5
台湾国立屏東大学 情報学部 欧 家和学部長・張 文智副学部長が室蘭工業大学を表敬訪問…	6
THE インパクトランキング2025に3年連続ランクイン ……………	7
「室蘭工業大学・ウポボイ見学ツアー2025」を開催 ……………	8
社会的インパクト表現ワークショップSTEP1（2nd Edition）及びYomo-Yamaノ宴を開催……………	9
第52回蘭岳コンサートを開催……………	11
第33回蘭岳セミナーを開催……………	12
香港城市大学訪問記……………	13

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ……………	17
受託研究等の受入れ……………	18
奨学寄附金の受入れ……………	19

◇ 人 事 ◇

人事異動……………	20
訃報……………	21

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催……………	22
------------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事……………	23
----------------	----

◇ 人物図鑑 ◇

室蘭工業大学人物図鑑 part.29～30 ……………	24
-----------------------------	----

トピックス

「価値ある大学 就職力ランキング2025-2026」 中小規模大学版 「卒業生の活躍度が分かる新・就職力ランキング」 全国 3 位（タイ）にランクイン

令和 7 年 6 月11日に発売された『日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング2025-2026』（日経HR発行）の、中小規模大学版*「卒業生の活躍度が分かる新・就職力ランキング」において、室蘭工業大学が全国 3 位にランクインしました。

また、中小規模大学版「大学の人材育成力ランキング」においては、道内 1 位（全国10位）となったほか、「新・就職力ランキング 側面別ランキング」、「大学の人材育成力ランキング 取り組み別ランキング」においても、複数の項目において道内 1 位となりました。

本学がランクインした項目は以下のとおりです。

《ランキング結果》

■「新・就職力ランキング」 中小規模大学版

- ・総合ランキング：全国 3 位

■「新・就職力ランキング 側面別ランキング」 中小規模大学版（道内 1 位）

- ・行動力：全国 5 位
- ・コミュニケーション能力：全国 3 位
- ・知力・思考力：全国 5 位
- ・成長力：全国 3 位

■「大学の人材育成力ランキング」 中小規模大学版

- ・総合ランキング：道内 1 位（全国10位）

■「大学の人材育成力ランキング 取り組み別ランキング」 中小規模大学版（道内 1 位）

- ・キャリア教育に熱心に取り組む大学ランキング：全国 5 位
- ・すぐれた研究を行っている大学ランキング：全国 4 位

【参考URL】日経HR>[価値ある大学2025-2026就職力ランキング](#)

*中小規模大学版：入学定員が2,000人以下で回答数が一定以上ある大学が対象。



出典：日経HR

『日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング2025-2026』 2025年 6 月発行

日本学生支援機構海外留学支援制度 （協定受入）奨学金プログラム： 台湾国立屏東大学を対象とした研修プログラムを実施

令和7年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定受入）に採択された台湾国立屏東大学を対象とした研修プログラム「Unity Bridge」と「台湾人学生が考えるウレシパ」を6月9日～24日に本学で実施しました。

屏東大学からは情報学部、応用日本語学科、英語学科の学生13名が、本学からは過去に屏東大学での研修に参

加した学生を中心に23名、合計36名が参加し、ICTを活用した課題解決とアイヌ文化に関する協働プロジェクトワークに取り組みました。日台学生の協働を通して国際的視野を広げる貴重な機会となり、双方の大学への長期留学を希望している学生もいることから、今後の両大学の学術・人的交流の発展が期待されます。



集合写真

室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室が 「Microsoft 365 Copilot Cup 2025」で優勝

室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室が、令和7年5月22日(木)に開催された「Microsoft 365 Copilot Cup 2025」(主催：日本マイクロソフト株式会社)に出場し、見事優勝を果たしました。

本大会は、Microsoft 365 Copilotを活用した業務効率化のアイデアや創造的な活用方法を競うコンペティションとなっており、全国から一次予選を勝ち抜いた13の企業等が出場、本学は参加チームのうち唯一の教育機関でした。

今回、本学のチームが発表した「Copilotを活用した就職支援シナリオ」が独創性と実用性を兼ね備えた取り組みとして高く評価され、栄えある初代チャンピオンに輝きました。

室蘭工業大学では、令和7年6月から全学事務部門に

おいてMicrosoft 365 Copilotの導入・利活用を進めており、今回の成果を踏まえ、さらなる生成AIの利活用を進めてまいります。

Microsoft 365 Copilotとは

「Microsoft 365 Copilot」は、Microsoft Corporationが提供するツールで、WordやExcel、PowerPoint、Teamsなど日常的に業務等で使用するMicrosoft 365アプリに生成AIが組み込まれたものです。

※Microsoft、Microsoft 365は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※Microsoft 365は、Microsoft Corporationが提供するサービスの名称です。



デジタル・キャンパス推進室 齊藤雅利室員によるプレゼン



本学の参加職員



参加者全員での集合写真

－ 参考 － (Microsoft社公表)

https://jp.linkedin.com/posts/microsoft_copilot-microsoft365copilot-activity-7336542402989408257-nE0K

本学大学院生らの論文がMDPIの 「Feature paper」に選出

学術雑誌や学会などで、特に優れた論文や重要な研究成果の記事として選出される、MDPIの「Feature paper」にて、本学大学院生Shakir Aliさんらの論文が選出されました。

「Feature paper」とは、分野における最先端の研究や、大きな影響を与える可能性のある研究が選ばれることが多く、学会誌に掲載された論文の中から、上位約1%が「Feature Paper」として選定されます。

《論文タイトル》

Biodegradability of Heavy Oil Using Soil and Water Microbial Consortia Under Aerobic and Anaerobic Conditions

【論文のURL】 <https://www.mdpi.com/2227-9717/13/7/2057>

《著者》

Shakir Ali（大学院工学研究科博士後期課程工学専攻 先端環境創生工学コース 1 年）

Isha（パキスタン：Government College University 動物学科 M2）

Young-Cheol Chang（しくみ解明系領域 教授）

《受賞コメント》

私たちの研究論『Biodegradability of heavy oil using soil and water microbial consortia under aerobic and anaerobic conditions』がProcessesの特集論文として認められたことを光栄に思います。この研究が、環境問題を効果的に解決するための貴重な知識を提供することを願っています。



選出された Shakir Aliさん

『between us: 私たちはAIと、創造性を問い直す』に 董冕雄副学長が対談者として掲載

令和 7 年 7 月 7 日に『between us: 私たちはAIと、創造性を問い直す』（EVOKE 著）が出版され、董冕雄副学長が対談者として掲載されました。

本書は、生成AIが生活に浸透しはじめた現代において、「AIと共に問いを立てる」ことに挑んだクリエイターたちの対話と実践の記録です。EVOKE（株式会社アマナ）のクリエイティブチームが主導するデザインプロジェクトの軌跡をはじめ、AIと創造性の関係を探る多彩なゲストとの対談が収録されており、董副学長もその一人として掲載されています。

【書籍の特徴】

生成AIと創造性の関係を探る実践的な記録
多彩なクリエイターとの対話を通じて、創造性の現在地を考察
AI活用のプロンプト設計や組織論など、実務に役立つ知見を網羅

【登場者（一部抜粋）】

曾根原健一（amana フォトグラファー）
夢眠ねむ（実業家・美術家）
萩原幸也（リクルート クリエイティブディレクター）
伊藤紺（歌人）
董冕雄（室蘭工業大学 副学長・教授）
秋元陸（Stylus Japan）
佐々木康裕（Lobsterr 発起人）

【書籍情報】

書籍名：between us: 私たちはAIと、創造性を問い直す
著者：EVOKE（株式会社アマナ）
出版社：株式会社アマナ
発売日：2025年 7 月 7 日
価格：2,200円（税抜き）
特典：AI活用のプロンプト集付き（デジタルZINE）



本書は、AIと創造性の関係に関心のある教育関係者、企業のDX担当者、クリエイターの方々におすすめです。ぜひご一読ください。

《お問い合わせ先》

室蘭工業大学 コンピュータ科学センター
TEL：0143-46-5688 / Email：CCS@muroran-it.ac.jp



CCS

Muroran Institute of Technology
コンピュータ科学センター

台湾国立屏東大学 情報学部 欧 家和学部長・ 張 文智副学部長が室蘭工業大学を表敬訪問

令和 7 年 7 月 15 日 (火)、本学の協定校である台湾国立屏東大学情報学部欧家和学部長・張文智副学部長が、松田瑞史学長、増田隆夫理事副学長/国際交流センター長、董冕雄副学長を表敬訪問しました。

国立屏東大学とは、令和 5 年度に学術交流協定を締結して以来、しくみ解明系寺岡諒助教と国際交流センター坂本裕子准教授による学生交流プログラムが双方向で行われています。

表敬訪問では、松田学長から、屏東大学欧情報学部長、張副学部長による本学来訪を温かく歓迎し、学生交流により両大学の協力関係が着実に深化していること、今後の交流継続と学術交流のさらなる発展に期待していることが述べられました。

欧学部長からは、今回の訪問受入れへの感謝が述べられたのち、6 月に行われた屏東大学受入れプログラムが有意義であったこと、今後もこのような交流が活発に行われることで、両大学の学生の国際意識を高めたことが述べられました。

翌16日、両教員は本学コンピュータ科学センターを見学しました。徐建文助教から、同センターにおける研究と教育活動について説明を受けた後、董冕雄副学長、太田香センター長および指導学生らと意見交換を行いました。

特に、次世代の被災地通信網をテーマに、日本や台湾にとどまらず、世界の最先端の研究動向や研究使命について、活発な議論が交わされました。



記念撮影①



記念撮影②

THE インパクトランキング2025に 3 年連続ランクイン

令和 7 年 6 月 18 日、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education）から THE インパクトランキング 2025 が発表され、本学は 1501+ 位で 3 年連続のランクインとなりました。総合ランキングにランクインした国立工業系大学は本学と豊橋技術科学大学の 2 大学のみとなっております。また、道内では本学と北海道大学の 2 大学のみがランクインしています。

<https://www.timeshighereducation.com/impactrankings>

「THE インパクトランキング」は気候変動対策やジェンダーの平等、健康と福祉など、国連が SDGs で掲げる 17 の各目標について、研究、管理責任、アウトリーチ（現場における実践）、教育という広範な 4 分野にわたる大学の取り組みをランク付けし、サステナビリティにおける大学の貢献度を示すランキングです。

室蘭工業大学は『真なる探究心から未来の価値づくりを。』をキャッチコピーとして、延べ 40,000 人余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。



Times Higher Education
Impact Rankings 2025

「室蘭工業大学・ウポポイ見学ツアー2025」を開催

令和7年6月29日(日)に室蘭工業大学ウィズ・ミュージアム タスクフォースが主催し、北海道白老町にある民族共生象徴空間（以下ウポポイと表記）を訪問する「室蘭工業大学・ウポポイ見学ツアー2025」を開催しました。事前に登録した学生26名（学部生24名、大学院生2名）と教職員9名の合計35名が参加しました。

ウポポイの中核施設である国立アイヌ民族博物館と室蘭工業大学は、令和5年10月26日に包括連携協定を締結しました。同協定にもとづく本イベントは、昨年引き続き2回目の開催となりました。

本ツアーでは、参加者がイベント全体を通じて、アイヌの歴史・文化に対する正しい理解を促すとともに、国立アイヌ民族博物館と本学との連携や協働による「総合知の創出と活用」について主体的に考え、今後の学びや研究、社会共創活動へとつながるきっかけを得ることを

目的として実施しました。ウポポイ到着後、博物館職員の方からレクチャーを受けたのち、自由にウポポイ園内を見学し、全員でアイヌ伝統芸能を鑑賞しました。その後、博物館内の交流室で、8グループに分かれて「アイヌに伝わる知恵や技術から、私たちはどんなことを学ぶことができるのでしょうか？」をテーマに、見学やこれまでの経験から、現代の生活に活用できる技術やものの考え方などを話し合いました。

今回のイベントをきっかけに、新たに学生や教職員を巻き込んだ連携活動の輪が広がり、異分野・異業種の連携により革新的なアイデアが生み出されることを期待します。これらの活動は、地域社会における多文化理解の促進や、国際的な課題への対応にも貢献する可能性を秘めており、本学が主体となって展開を進めることで、より広い社会的価値の創出につながると考えています。



事前レクチャーを受ける参加者



グループディスカッションの様子



参加者による記念撮影

社会的インパクト表現ワークショップSTEP1 (2nd Edition) 及びYomo-Yamaノ宴を開催

令和7年7月2日(水)に社会的インパクト表現ワークショップSTEP1 (2nd Edition) 及びYomo-Yamaノ宴を本学大学会館多目的ホールとカフェ TENTOで開催しました。

第1部の社会的インパクト表現ワークショップSTEP1 (2nd Edition) は、株式会社サイバコの協力を得て、本学MONOづくりみらい共創機構パブリックリレーションズオフィス (PRオフィス) の主催で開催しました。

PRオフィスは、「室蘭工業大学の知られざる価値を地域に届ける」ことを目指して活動を進めており、その一環で昨年開催したワークショップをリバイスし、今回、社会的インパクト表現の基礎を理解すること等を目的と

したワークショップを開催し、教員、職員、学生、地域の方30名が参加しました。

ワークショップでは、株式会社サイバコの岩瀬氏のファシリテートにより、PRオフィスの山田祥子准教授からのミニレクチャーから始まり、5グループに分かれてアウトプットからアウトカムを考えるワークを実施しました。ワークショップが進むにつれ次第に緊張がほぐれて、熱のこもった議論や笑顔で議論する場面が増えていきました。最後に各チームからワークについての発表が行われ、話題提供者の教員からは、多様な参加者からの異なる視点による斬新なアイデアに、新たな気付きを得ることができたといった感想が多く、充実した時間となりました。



グループワークの様子①



グループワークの様子②



発表の様子①



発表の様子②

トピックス

第2部のYomo-Yamaノ宴は、室蘭工業大学MONOづくりみらい共創機構地域共創オフィスの主催で領域を超えて多くの人とヒューマンネットワークを形成することを目的に開催し、31名の教員、職員、学生、地域の方が参加しました。参加者は、美味しい料理を片手に、普段あまり交流のない方とも積極的に交流を深めていました。

室蘭工業大学MONOづくりみらい共創機構では、今後もこのようなイベントを開催し、社会的インパクトの表現についての理解を深める活動を進めるほか、研究者等の異分野交流の促進を図り、未来への価値づくりへの貢献を進めてまいります。



第2部Yomo-Yamaノ宴の様子

第52回蘭岳コンサートを開催

令和7年7月13日(日)に大学会館多目的ホールにおいて、第52回蘭岳コンサートを開催し、市民、教職員及び学生142名が参加しました。

今回は、JAZZピアニストのMIHOKOさん、JAZZベーシストの柳真也さん、JAZZドラマーの舘山健二さん、本学学生サークルJAZZ研究会メンバー（坂本響大さん：ギター、原田響さん：サキソフォン、朝倉陽奈さん：フルート、下山優人さん：トロンボーン、伊藤アラン幸大さん：ギター）をお招きし、JAZZの演奏を披露していただきました。

参加者は、演奏者の高度な演奏技術に魅了され、「とっ

ても楽しく聴かせていただきました。」「素敵でした。また聴きに来たいです。」「迫力があつた。学生も良かった。」などの感想が寄せられました。

次回は、10月25日(土)に高石拓実さんのピアノソロリサイタルを開催予定です。

なお、今回のコンサートにおいて、「令和7年能登半島地震災害義援金（石川県、富山県、新潟県、福井県）」へのご協力を呼びかけた結果、皆様から寄せられた義援金は8,691円となりました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご報告を申し上げます。



MIHOKOさん、柳真也さん、舘山健二さんによる演奏



JAZZ研究会メンバーとプロの演奏者とのコラボ



集合写真

第33回蘭岳セミナーを開催

令和7年7月18日(金)に教育・研究1号館A304講義室で第33回蘭岳セミナーを開催し、教職員、学生及び市民約150名(オンライン参加含む)が参加しました。

今回は、慶應義塾大学システムデザインマネジメント研究所顧問の福田収一氏を講師にお招きし、「逆転の時

代 - Simple is the best」と題して、「マーケットづくりから自分づくりへ」をわかりやすくご講演いただき、参加者は興味深く聴き入っていました。講演後の質疑応答では、会場の参加者からの質問に対して丁寧な説明があり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



講演する福田氏



会場の様子

香港城市大学訪問記

白 尚燁、董 冕雄、太田 香、松田 瑞史

2025年7月3日に松田 瑞史学長、董 冕雄副学長・教授、太田 香教授・コンピュータ科学センター長、白 尚燁国際交流センター准教授で構成された本学訪問団が香港城市大学（City University of Hong Kong：CityU）を訪問しましたので、下記のとおり、その報告をします。

1. 香港城市大学の概要

香港の中心部である九龍塘に本部を置く香港城市大学は、1984年に「香港城市理工学院（City Polytechnic of Hong Kong）」として設立され、1994年に大学へ昇格し、現在の名称となりました。同大学は、ビジネス学部、工学部、教養社会科学部、理学部、獣医学生命科学部など、10学部を有する総合大学で、教職員は約2,500名、学生は約2万人に達しています。香港の教育・研究の中心地に位置し、交通の利便性と国際都市としての多様な環境を兼ね備えています。

同大学は、コーネル大学と提携して2016年にアジア初の6年間の獣医学士プログラムを開設したほか、香港で初めてとなるデータサイエンス学部を設置するなど、先進的な教育プログラムに強みを持っています。2025年QS世界大学ランキングでは62位、THE世界大学ランキングでは78位にランクされており、アジアを代表する世界トップレベルの大学です。

香港城市大学は、研究とイノベーションに重点を置き、世界各国から集まった優秀な教員が最先端の研究を行っています。また、学生に革新的なマインドセットを育成することを目標としており、世界で活躍するためのスキルと知識を提供しています。このように、教育と研究の両面で優れた成果を上げており、学生にとって理想的な学びの場となっています。

2. 学術交流協定の調印式

今回の訪問の主な目的は、香港城市大学との学術交流協定締結調印式に参加するためでした。本協定締結の背景には、両大学間における長年にわたる研究交流の蓄積があります。特に、本学の董副学長と香港城市大学のWang Jianping教授との間で行われてきた研究交流が契機となり、2023年には空閑良壽前学長、董副学長、太田教授、斎藤副課長が同大学を訪問、さらに2024年10月には香港城市大学のFreddy Boey学長ほか教職員3名が本学を訪問するなど、相互訪問を通じて関係が着実に深まってきました。これらの交流を通じて両大学間の相互理解が進み、このたびの正式な協定締結へと結実しました。



写真1. 調印後の両大学代表者



写真2. 調印式後、両大学関係者の記念撮影

調印式では、両大学の代表者がスピーチを交わし、これまでの交流の成果と信頼関係を振り返るとともに、今後の両大学間における交流拡大への強い期待を表明しました。協定は、教職員の相互派遣・共同研究・学生交流（交換留学）の推進など、包括的な学術連携を目的としたものであり、署名後には記念品の交換と記念撮影も行われ、式典は終始和やかな雰囲気の中で締めくくられました。

3. キャンパスツアー

3. 1. テラヘルツ・ミリ波国家重点研究室

調印式を終えた後、本学訪問団は、香港城市大学が誇る世界的研究拠点の一つであるテラヘルツ・ミリ波国家重点研究室（State Key Laboratory of Terahertz and Millimeter Waves）を訪問しました。本研究室は、テラヘルツ・ミリ波領域における最先端技術の研究・開発を推進している、国家重点実験室であり、その稀有な存在と卓越した研究成果により国際的にも極めて高い評価を受けています。訪問の際には、研究室を主導する Wong Hang 教授が直接案内にあたり、研究内容や研究設備の特徴、さらには今後の応用展望について、非常に詳細かつ丁寧な説明が行われました。



写真3. Terahertz and Millimeter Waves研究室の入り口



写真4. Wang教授から説明を受けている本学訪問団

テラヘルツ・ミリ波国家重点研究室は、現代社会の幅広いニーズに応える多彩な応用分野を有しており、特に 超高速通信、医療診断、非破壊検査、精密センシング といった分野において先導的な役割を果たしています。研究室では、基礎研究にとどまらず、産学連携や国際共同研究を積極的に展開し、実用化に直結する成果を創出しています。今回の訪問では、特に以下の応用事例が紹介されました。

- ・通信分野：次世代データ伝送を可能にする超高速・大容量通信技術
- ・医療分野：がん診断をはじめとする非侵襲的かつ高精度な画像診断技術
- ・文化財保護：歴史的遺産や美術品に対する非破壊分析・保存技術



写真5. 見学後の記念撮影



写真6. Wang教授に記念品を渡している松田学長

これらの事例を通じ、訪問団はテラヘルツおよびミリ波技術が単なる先端的な研究領域にとどまらず、社会基盤や人類の生活の質の向上に直結する重要な分野であることを実感しました。さらに、研究室内に整備された高度な測定機器やシステムを実際に目にすることで、その充実した研究環境と国際的な成果の背景にある努力と先見性を改めて理解することができました。

見学の最後には、今後の共同研究の可能性や人材交流のあり方について、活発な意見交換が行われました。Wong教授からは、国際共同研究におけるオープンな姿勢と、新しい世代の研究者育成に対する強い意欲が示され、本学訪問団にとっても大変刺激的な機会となりました。今回の訪問は、両大学の研究連携を一層強化し、未来志向の学術協力を深化させる第一歩として極めて意義深いものとなりました。

3. 2. The Indra and Harry Banga Gallery

続いて、訪問団は香港城市大学附属の文化芸術施設である The Indra and Harry Banga Gallery を訪れました。同ギャラリーのディレクターである Alvin Yip Cheung-on 教授の案内により、開催中であった特別展「Central African Art – Invocation of an Unseen World（中央アフリカ美術―目に見えぬ世界への祈り）」を観覧することができました。具体的には、中央アフリカ地域における精霊信仰、儀式文化、そしてそれらが生み出す造形美術を多角的に紹介するものです。伝統的な仮面や彫像、儀礼に用いられた道具に加え、現代アーティストによるマルチメディア作品や映像資料も展示されており、文化人類学・宗教芸術の視点から非常に高い学術的価値を有する内容となっております。また、本展は映像・プロジェクション・マルチメディアとの融合・インタラクティブ技術などを用いた没入的な展示空間の演出が大きな特徴でした。この演出にはCityUのコンピュータサイエンス学科（Department of Computer Science）と協力して構築された先進的なシステムが導入されており、学術研究の成果と学内技術資源の融合が強く印象に残りました。

訪問団の一行は、ギャラリー職員の案内のもと展示を巡り、中央アフリカにおける“目に見えぬ世界”への祈りと表象のかたちについて理解を深めました。とりわけ、仮面舞踏の映像展示や音響効果を活かした展示空間の演出には、参加者一同大きな感銘を受けておりました。本展は、芸術と精神文化の関係性を探る貴重な機会であり、今後の国際交流・学術連携の一環としても重要な視察となりました。本学としても、こうした異文化理解の機会を通じて、多様な学問分野への視野を広げてまいります。



写真7. アフリカ先住民の狩猟道具に関する説明を受けている本学関係者



写真8. Yipディレクターへ記念品を渡している松田学長

Alvin Yip Cheung-on 教授の豊富な専門知識による解説を通じて、訪問団は各展示物に込められた宗教的象徴や文化的背景をより深く理解することができました。特に、中央アフリカの伝統儀礼において仮面が担う社会的・精神的役割や、現代アートとの融合がもたらす新たな表現の可能性についての説明は、深い感銘を受けました。展示全体が提供する没入的な体験は、研究・教育の場における文化理解の重要性を改めて認識させるものであり、訪問団にとって学術交流の枠を超えた貴重な文化的収穫となりました。

3. 3. CityUの福利厚生施設見学

香港城市大学訪問の際には、研究施設だけでなく、学生や教職員の生活を支える福利厚生施設についても視察しました。まず、中華、和食、洋食など多様なメニューを提供するキャンパス内の大学食堂を見学しました。国際色豊かな食事の選択肢は、留学生や多様な背景を持つ学生・教職員にとって大きな魅力となっています。さらに、大学食堂には、環境保全の取り組みとして、リサイクル可能な環境配慮型弁当箱を貸し出す自動販売機の設置も確認しました。これは使い捨て容器の削減を目的とした先進的な取り組みであり、大学全体でのサステナビリティ推進の一環です。



写真 9. キャンパス見学中の本学関係者



写真10-11. CityU食堂

最後に、CityU自らが開発・製造したオリジナルのアイスクリームを試食し、そのユニークな取り組みと学生・地域コミュニティへの還元の姿勢を実感しました。これらの施設は、学術研究と同様に大学生活の質向上に寄与しており、総合的な教育環境の充実ぶりを示しています。

4. おわりに

今回の訪問は、長年の信頼と協力関係の積み重ねを礎とした正式な協定締結という節目を迎えると同時に、香港城市大学との学術・技術・文化の三領域にわたる多面的な交流の深化を象徴する機会となりました。本学としても、今回の協定を起点に、香港城市大学との連携をさらに拡充させ、グローバルな視野に立った教育・研究・文化活動の推進に一層努めてまいります。

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金 額 (千円)
もの創造系領域 教 授 高 瀬 裕 也	大 企 業	800
もの創造系領域 教 授 廣 田 光 智	大 企 業	1,500
もの創造系領域 教 授 廣 田 光 智	大 企 業	5,070
もの創造系領域 准教授 KIM JIHOON	大 企 業	2,990
もの創造系領域 准教授 立 山 耕 平	地 方 公 共 団 体	900
もの創造系領域 助 教 江 口 光	独 立 行 政 法 人	4,974
もの創造系領域 助 教 藤 平 祥 孝	大 企 業	2,600
しくみ解明系領域 教 授 岸 本 弘 立	独 立 行 政 法 人	455
しくみ解明系領域 教 授 山 中 真 也	大 企 業	2,730
しくみ解明系領域 助 教 鈴 木 元 樹	大 企 業	468
合 計 (10件)		22,487

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金 額 (千円)
もの創造系領域 教 授 北 沢 祥 一	国	214,500
もの創造系領域 教 授 高 瀬 裕 也	大 企 業	715
もの創造系領域 准教授 浅 田 拓 海	地 方 公 共 団 体	7,000
もの創造系領域 准教授 浅 田 拓 海	そ の 他	715
もの創造系領域 准教授 浅 田 拓 海	そ の 他	715
もの創造系領域 准教授 栞 原 浩 平	大 企 業	758
もの創造系領域 准教授 中 田 大 将	そ の 他	25,402
しくみ解明系領域 准教授 小 林 洋 介	大 企 業	1,100
合 計 (8件)		250,905

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
太陽誘電株式会社	工 学 研 究 助 成	500
一般財団法人北海道建設技術センター	工 学 研 究 助 成	3,410
ダイダン株式会社	工 学 研 究 助 成	500
公益財団法人秋山記念生命科学振興財団	工 学 研 究 助 成	1,200
公益財団法人秋山記念生命科学振興財団	工 学 研 究 助 成	1,200
公益財団法人住友財団	工 学 研 究 助 成	800
公益財団法人スズキ財団	工 学 研 究 助 成	150
室蘭工業大学学生後援会	室蘭工業大学と学生父母との 連携及び学生支援のための助成 (課外活動援助分兼食支援)	1,140
若水商事株式会社	工 学 研 究 助 成	120
合 計 (9 件)		9,020

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和 7 年 7 月 31 日	〈雇用期間満了〉	遠 藤 友 人	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		小 川 泰 聖	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		加 藤 裕 也	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		熊 倉 勇 朔	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		吉 田 光 希	ものづくり基盤センター 技術補佐員
令和 7 年 8 月 1 日	〈採 用〉 大学院工学研究科特任准教授(しくみ解明系領域) 兼務：MONOづくりみらい共創機構	永 井 展 裕	北海道大学・統合URA本部・ URA

訃 報

名誉教授

坂口 威（享年93歳）

本学名誉教授、坂口 威 氏は、去る令和 7 年 8 月 5 日(火)逝去されました。

ここに、生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、北海道大学工学部電気工学科を卒業後、昭和37年10月室蘭工業大学講師、昭和41年 4 月同助教授、平成 6 年12 月同教授、平成11年 4 月に室蘭工業大学名誉教授となられ、現在に至っておりました。

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 6月25日～7月24日 >

開催日時 令和7年6月26日(木)

会議名 第7回役員会

開催日時 令和7年6月26日(木)

会議名 第2回経営協議会

開催日時 令和7年7月10日(木)

会議名 第3回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

開催日時 令和7年7月15日(火)

会議名 第6回企画戦略会議

開催日時 令和7年7月17日(木)

会議名 第4回教育研究評議会

学内行事

- 6 月27日(金) 辞令交付
- 7 月 1 日(火) 辞令交付
- 7 月13日(日) 第52回蘭岳コンサート
- 7 月15日(火) 合格発表【2026年度 4 月入学大学院博士
前期課程推薦入試・2025年度10月
大学院博士前期課程外国人留学生入試
(国外出願)】
- 7 月18日(金) 第33回蘭岳セミナー

学外行事

- 6 月25日(水) 国立大学協会令和 7 年度第 1 回通常総会
(東京)
- 6 月25日(水) 半導体人材育成推進等協議会 第 1 回本
会議(オンライン)
- 6 月28日(土) 札医大創基80周年式典・講演会・記念祝
賀会(札幌)
- 7 月 3 日(木) 香港城市大学との学術交流協定締結調印
式(香港)
- 7 月 9 日(水) 令和 7 年度北海道工学教育協会理事会・
総会(オンライン)
- 7 月23日(水) 北洋銀行ものづくりサステナフェア2025
(札幌)

室蘭工業大学 人物図鑑

室蘭工業大学に所属する教員・職員に
専門分野、業務内容、室工大の
Good Pointなどを聞いてみました。

- ①専門・業務内容
- ②室工大のGood Point
- ③室工大で好きなspot



Part
29

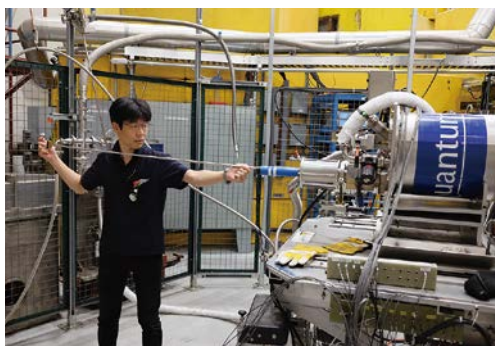
准教授
馬渡康輝



- ①高分子化学、有機化学（炭素循環社会を一緒に実現しましょう!）
- ②北海道の中では住みやすい地域、研究に集中できる環境ですね
- ③X棟3Fラウンジ：キャンパス最北の建物の最上階で四季と鹿🦌が満喫できます。
研究室の目の前があるのでゼミや報告会やレクなどいつも占有してごめんなさい🙇

Part
30

助教
宮崎正範



- ①量子ビーム（ミュオン科学）、物性物理、ML・AIによるスペクトル解析（最近始めました）
- ②地方大学の中でも特異的に物性研究に関係する合成・測定装置などの研究環境が充実しているところ。実験装置が示す室温は本州で300K。でも室工大は295K！
- ③K棟6階会議室から見える海、駐車場から見える山の四季（春は山桜、夏は新緑、秋は紅葉）、エゾリスに会える早朝の体育館横の林

編集後記

◆ 8月といえば「夏休み」。

夏休みは“休む”だけの時間ではありません。自分と向き合う、何か新しいことに挑戦する、時には迷いながらも前に進むという時間にしてみてもいいのではないでしょうか。

先日開催されたオープンキャンパスでは、「大学生活の〇〇を本音で語る」と題し、学生広報スタッフむろこーほーによる特別対談が行われました。

その対談の中で、「大学生のうちにやっておくべきこと」というテーマの中で、自分の時間を確保できる学生のうちに、旅行などさまざまな体験をしてほしいという声が複数の学生から聞かれました。筆者自身、社会人となった今だからこそ、その言葉に深く共感しました。

いつも忙しく過ごしている皆さまへ。

在学生は夏休みの残りの期間。卒業生や教職員の方々もまだ遅くはありません。

この夏は、ほんの少しだけ、自分のための時間をとってみませんか。

旅でも、読書でも、散歩でも。そのひとときが、きっと新しい一歩につながるはずです。

ムロぴょんも先日、室蘭市内をお出かけしてきました！



むろこーほー対談の様子



ムロぴょんのお出かけの様子

(Garoon：総務広報課秘書広報係、E-mail：koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロぴょん」

■編集発行

室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所

株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308